

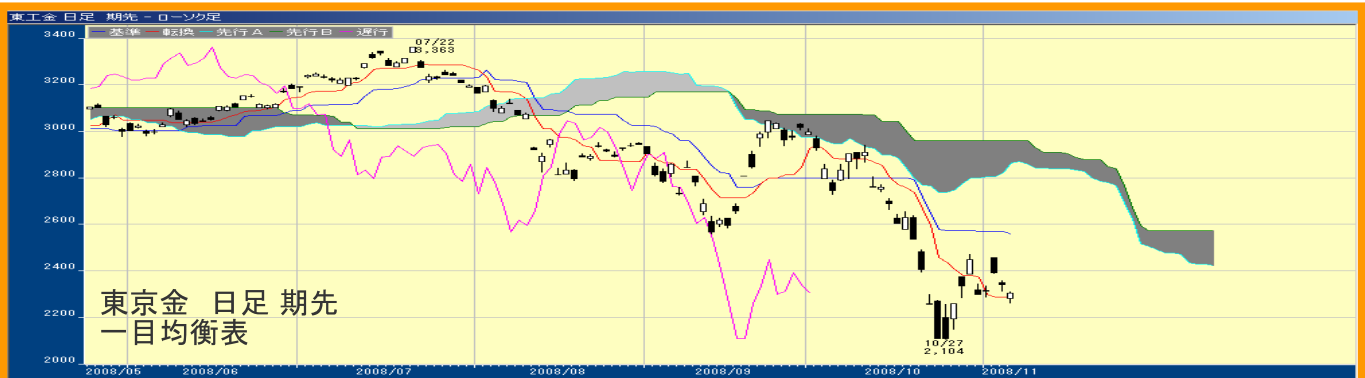
## □ アナリスト週間相場予想

		
江崎		
西		

## Pick up News

- 〔注目スケジュール〕
- 11/12 10月の米財政収支  
9月のユーロ圏鉱工業生産指数
  - 13 9月の米貿易収支  
米新規失業保険申請件数
  - 14 10月の米小売売上高  
11月のミシガン大消費者景況感指数  
2008年第3四半期のユーロ圏GDP速報  
米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告

## □ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



東京金をまず単純パターンで見てみる。すると11/7前引け現在2284円(11/4安値)をネックラインとするWTトップをザラバでは完成していることがわかる。日足に被せた一目均衡表に目をむけても現在2288円に位置する転換線を割り込んでおり2288円と2284円の昨日まではサポートラインとして機能していた値段をザラバで一旦下回ったのが見てとれる。よって2280円を確りブレイクダウンして本日引けるようであれば心理的抵抗線として撤退ラインを2300円辺りに置いて売り方針と考えるのが妥当であろう。注意点としては本日(11/7)前引け時点の値段は2274円であり、急激に切替し2290~2300円を回復した場合には逆に買い戦略をとるべきであると言う点。この2290円~2300円に存在する壁を転換点として、値段が上回れば買い、下回ったままなら売り方針となる。売りの場合は次のはっきりしたサポートライン2104円が目標値となり、現時点ではリスク・リワード(予定リスクと予定リターン)の数値は売り有利であると言わざるを得ない。白金は金に比して日足チャートは悪くない。一目均衡表上も転換線がサポートとしてぎりぎり機能しており、安値圏のレンジ下限に現値が位置している。貴金属セクターでスプレッドをくむなら金売り白金買いがよいだろう。(11/7前引け現在)

## □ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

貴金属相場は金と白金とで明暗を分けそうな情勢である。まず、金に関しては世界的な利下げ機運が再び高まっており、これが金融市場に安心感をもたらすとして資金逃避の動きが鈍っている。米大統領選を挟んで株式市場は荒れ模様だが、金融機関に対する経営不安の声はあまり聞かれなくなっており、過度の信用不安はようやく和らいだと判断しても良さそうだ。实体经济の悪化を材料に株式市場は再度売り直されているものの、本日発表の米雇用統計、そして懸念されているGM、フォードの決算を通過すれば、一旦は落ち着くとの期待が持てる。昨日大幅減益を発表したトヨタがザラバで寄り付いたことで、日経平均も安値から大きく切り返すことに成功した。投資家マインドは安定していないが、悲観的な状況の中にも先を見越した長期マネーの存在が感じられる。この点では金にはどちらかと言えば売り材料、景気敏感な白金にはややプラスに映る。

また、自動車業界の逆風はもはや周知の時事で、米政権がビッグスリー救済に向かうことに確証が持たれれば好感されやすいのも白金であろう。ただ、あくまでこれは楽観的なシナリオに過ぎない。白金に関しては、まずはジョンソン・マッセイ社の需給レポート待ちで、今は思惑から下値が拾われているに過ぎない。結果を見ないことには安易に買いつのもリスクが高い。金・白金ともに株価との連動性も見え始めており、株高予想局面では白金を買いに、株安予想ならば金を買いに、相手をヘッジ対象とする戦略にてリスクをコントロールすべきであろう。週末を通過すれば相場観も変わる可能性がある。言い換えれば、それだけ今晚の米国動向からは目が離せない。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。

RE0071(許可取得日08/11/7)